

御霊を悲しませるな

2023年10月8日

ローマ 8・1～17

エペソ 4・30、1・13～14

序：御霊（聖霊）は三位一体の神の一位格（御父、御子、御霊） ∴ 神
巨大なエネルギー、強い影響力（＝物質）ではない
神の御霊、キリストの御霊とも呼ばれる

イエス・キリストを信じた瞬間から、信者の内に住まわれる
信者の内には葛藤・闘いがある（古い人 VS 新しい人）
（肉 VS 御霊）
信者の罪の行いを駆逐する（罪と悪魔に対する勝利）

真の信仰者を導いてくださる ⇒ （神の子ども）である証拠
" が御父を「アバ、父」と呼ぶようにされる
" が御国をキリストとともに相続することを確約なさる

I. 御霊を悲しませるな

(1) 御霊はなぜ悲しまれるのか？

人格（知・情・意）をもっておられるから
得体の知れない単なる力ではない

(2) 御霊が悲しまれるのはどんな時か？

信者が肉によって歩む（＝御霊に逆らう）時
御霊のお働きを無視（＝消す）
御霊によって罪に勝利できることを認めない時

(3) 悲しまれる理由：聖さが汚されるから

愛が傷つけられるから
信者が神との交わりを破壊するから

Ⅱ. 聖霊は救いの完成（贖いの日）の保証

(1)途中で何があっても救われている、まちがいなく救われる

エペソ 1・13～14

このキリストにあって、あなたがたもまた、真理のことば、あなたがたの救いの福音を聞いてそれを信じたことにより、約束の聖霊によって証印を押されました。

聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証です。このことは、私たちが贖われて神のものとされ、神の栄光がほめたたえられるためです。

(2)神のものであるというしるし

ガラテヤ 6・17

↔

黙示録 13・16

私はこの身にイエスの焼き印を帯びている

獣の刻印

(3)今は救いの完成に至っていない（その途上）

ゆえに、救い・救いの完成への疑いや迷いや恐れが出てくる

その時に " 確信を与えてくれるのが聖霊の内住

Ⅲ. 結び

(1)信仰者の内に葛藤・闘いがあること自体が神の子どもである証拠

新しい人と古い人の二つの性質のせめぎあいは、新生していない人にはない
古い人（肉・この世がすべて）だけなら闘いは起きようがない

(2)信仰者を導き、神に喜ばれる生活をさせてくださるのは聖霊

もはや、私が生きているのではなく、キリストがわが内に生きておられる
ガラテヤ 2・20

私の力や知恵によってではない

(3)聖霊の内住は「感じる」ものではなく、「信じる」もの

主観的

客観的

感情・雰囲気

みことば

(4)信仰者の祈りをとりなしてくださる

(5)誘惑、悪から遠ざけ、救い出してくくださる

(6)信仰者が試練や誘惑に会っても、神から離れないよう導き、守ってくださる

(7)信仰者が罪を犯す時、悔い改めを迫り、助けてくださる

(8)御霊に導かれている人は、神の子どもである